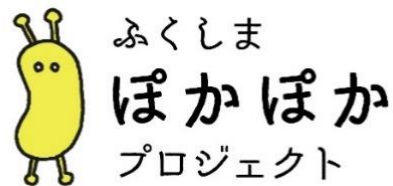


あの日から13年 どう伝えていくか～  
「福島ぽかぽかプロジェクト」で見えてきたこと



2024年4月16日

※子どもたちの顔が写っています  
資料のご使用はご遠慮ください



**FoE Japan**  
矢野 恵理子

週末保養 土湯温泉  
長期保養 南房総

2012年1月~2013年3月 土湯温泉 2,500名  
2012年夏~2017年夏 南房総 9回 230名





猪苗代  
2013年5月  
～2024年3月  
2,800名

ぽかぽか参加者  
合計5,500名を  
超えました。



開催場所と  
参加者の住まい



# 福島に暮らすお母さんお父さんの気持ち

- ・コロナ禍、見えないウィルスに怯える日々が、見えない放射能に怯えた日を思い出させ、とても辛い気持ちになる方がいました。
- ・度重なる地震や各地での災害に、当時にフラッシュバックして苦しくなる方がいました。
- ・あの原発事故の後、悩み苦しみ自分で決断しなくてはならなかったお母さんたちは、何かあるたびに、自分を責めてしまいます。
- ・周りにその不安や苦しみを話すことができない状況です。  
（原発事故や放射能の事を口にすると、まだそんなこと考えているの？とか、そういう人がいるから風評被害が収まらない。など言われます）

もう13年、まだ13年、その日から何も進んでいないという人もいます。普段は、何事もなかったように暮らしています。でも、何事もなかったわけでもなく、辛さが減ったわけでもなく、不安がなくなったわけでもありません。

原発事故はこんなにもたくさんの方の心を傷つけてしまったのです。

## 新しい試み 浜通りから

帰宅困難区域の解除によって、新しい人たちが、浜通りに移住してきました。

廃炉に関わる仕事、東電関係者、建設、除染、また新事業に関わる仕事、それを支える支援団体等、若い家族も移住してきました。

富岡町の子どもたちとその家族のためのぽかぽかを昨年夏開催しました。



野山で走り回れる環境にはありません。慣れない地で、インフラも整わない中、一生懸命子育てしている素敵な人たちに会いました。

子育てに手厚い助成が行われているこの地域に、新たに暮らす人たちを私たちは、温かい目で見ることができているでしょうか。誰でも子どもたちの健康を何より願う気持ちは同じです。国の分断政策にふりまわされないようにしたいものです。

# 伝えるということ

- ・親から子どもへ、祖父母から子どもへ、いろいろな経験が伝えられる素敵な文化があります。

- ・原発事故のこと、見えない放射線のこと、わからない健康被害や不安なこと、国はメディアは何の問題もなく大丈夫だと、被害ではなく風評被害だと伝えていきます。

「私が原発事故とその後のたいへんだったことを、子どもたちに話せない間に、学校やメディアが原発が必要だと教えるから、子どもたちが原発推進論者になってしまう」  
こんな声が聞こえてきました。

- ・エネルギーワークショップを小学高学年生や中学生に開催しました。
- ・つながる福島：原発事故後のいろいろな経験を話す機会を作りました。
- ・気候変動かるたやSDG'sかるた、クライメイトジャスティスの学習会を開催しました。
- ・中校生とその親を対象に、水俣・長崎学習旅行を始めました。

# エネルギー ワークショップ



春休みにエネルギーワークショップを開催。大学生が、ファシリテーターを務め、子どもたちと一緒にエネルギーについて考えたり調べたりして発表しました。（太陽光・バイナリー・小水力・水力発電所見学）



福島県は再生可能エネルギーにとっても力を入れています。



気候変動かるた大会  
セミナー・  
ワークショップ



# 水俣・長崎学習旅行

ぽかぽかで出会ったたくさんのおともたちは、13年間で成長し、3.11の記憶を全く持たないおともたちが、今は高校生です。

彼らにとっては3.11は歴史です。国や県が復興を叫び、放射能は怖くないとの教育の中、お父さんお母さんも、私たちも、おともたちにどう伝えていったらよいのか悩んでいます。

自分たちの置かれている状況を考えるために、「水俣・長崎学習旅行」を企画し、現地を見て、被害者や現地の方々のお話を聞き、交流会を開催し、多くの事を学んで来ました。

79年経っても伝え続けている長崎は当初30年は誰もが原爆の事、被害の事を口にできなかつたそうです。今は高校生平和大使が反核の活動を続けています。

国と大企業がしでかした水俣問題、数々の分断や差別、声にあげられない状況が、福島を重ねてしまいます。

# 水俣・長崎学習旅行



ぽかぽかプロジェクトに  
ボランティアとして、  
スタッフとして  
参加者として  
関わった方からのお話



ふくしま  
ぽかぽか  
プロジェクト



原発事故が起こした多くの課題がまだまだ山ほど残っています。  
保養希望者がいる限り、1回でも多く、1日でも長く、保養を続  
けていく必要を感じています。



末長いご支援よろしく  
お願いいたします<sup>13</sup>

# 子ども原子力災害 保養資料室 ほよよん



いわき市

古滝屋 9階 保養資料室 《ほよよん》

<https://hoyoushiryoshitsu-hoyoyon.jimdosite.com/>



受け入れ団体として保養に取り組んできた保養関西の方々中心に、さまざまな立場の人たちと対話しながらこの活動を記録し、記憶と経験を継承していくことを目的に設立されました。

